資源リサイクルを構築・運営している商店街!!

ここがポイント

商店街振興組合の有志組合員（個店）が「弘前土手町商店街古紙リサイクルシステム協議会」を組織し、参加個店の連携のもと、可燃ごみとして排出していたダンボールや新聞紙、雑誌などの紙類を分別し、資源として回収する「古紙リサイクルシステム」を構築・運営。

古紙のリサイクルに取り組む下土手町商店街

【取り組みの背景】

青森県で行っている「青森県循環型社会推進地域連携ネットワーク構築事業」を活用して、街区単位で連携してごみの減量、リサイクルの推進に取り組む検討を開始したことがきっかけ。

【取り組みの概要・経過】

弘前市の中心市街地である下土手町商店街では、商店街振興組合の有志組合員（個店）が「弘前土手町商店街古紙リサイクルシステム協議会」を組織し、参加個店の連携のもと、可燃ごみとして排出していたダンボールや新聞紙、雑誌などの紙類を分別し、資源として回収する「古紙リサイクルシステム」を構築・運営している。

このシステムの構築・運営により、ごみとして出されていたものが資源として活用されることになり、ごみの減量やリサイクルが進んだほか、隣接商店街にも波及し、さらには新たな環境保全の取組に向けての気運が高まっている。商店街の各個店が連携して資源として回収することで、ごみの処理費用が軽減されるだけでなく、微々たるものながら古紙の売却益が入るということで、弘前下土手町商店街振興組合の有志組合員や弘前市内の製紙原料問屋などがメンバーになって、協議会が設立された。現在は、１８の個店が参加している。

【取り組みの効果】

古紙リサイクルにより可燃ごみの量が減り、個店によっては、ごみ処理に要する経費が月１万５～６千円程度節約できた。また、各個店ともに水道料、光熱費などの節約につながったことも大きな成果といえる。

【今後の課題など】

弘前下土手町商店街の取組が隣の中土手町商店街にも波及。同じような古紙リサイクルシステムが構築されたほか、地域を超えてこの事業の趣旨に共感し参加している事業所も見えはじめている。

下土手町商店街の中でも、飲食店については紙ごみが少ないため古紙リサイクルシステムへの参加は難しいが、食品ごみについては、堆肥化などのリサイクルの方向で話が進んでいる。

今後は、古紙回収システムの構築を機に、マイタンブラー、マイ箸、エコバックなど多様な環境保全の取組を活用した事業を進める気運が高まっている。

また、環境対策にもなるバリアフリーを意識したレンタルカートや、シュッピングコンシェルジュ、買い物代行、宅配などの総合サービスや、空きスペースを使い買い物送迎バス事業と上記の総合サービスステーションを連動し、交通弱者や高齢者を中心に市民に優しい商店街の事業案について検討中である。

【下土手町商店街】

所在地：青森県弘前市土手町２２
会員数：５５名
店舗数：３５店舗
ＵＲＬ：http://www.sitadote/or/jp/

【この商店街にこの人あり】

菊池　清二
（弘前土手町商店街振興組合　理事長）
TEL:０１７２-３３-５３６９
FAX:０１７２-３３-７９３４

【活動内容】

初夢富くじ抽選会
よさこい津軽
カルチュアロード
共通フラッグ事業
Do スタンプ事業への参画
ファッション甲子園事業への参画
ホームページ運営

【うちの商店街、ここが自慢】

弘前城から南下する参勤交代の街道、商人が軒を連ねる歴史のある商店街。

美術館と住民が連携し、まちなか アートでにぎわいあふれる商店街!!

ここがポイント

まちなかアートを住民力で展開し、商店街の活力に。

街かど美術館開催期間中のまちのにぎわい

【取り組みの背景】

花巻市東和町（人口1万人）の中心市街地である土沢商店街。ここに隣接する萬鉄五郎記念美術館は近代洋画の先駆者、萬鉄五郎（よろずてつごろう）の作品や資料を展示・所蔵しているだけでなく、25年間にわたって独自の企画展やワークショップを展開し、多くの人をこのまちに呼び寄せてきた。しかし、来館者は商店街を素通りし、また地域住民もなかなか美術館に足を運ぶ機会が少ないのが現状で、同じ地域にありながら商店街と美術館は近くて遠い存在であった。そのような中、美術館の企画展にあわせ、美術館から商店街へ来訪者を回遊させる取り組みをやってみないかと提案を持ち込まれる。

また、商店街においては地元行政における周辺3市町との合併を控え、このままでは新市の中で埋没し、地域が加速度的に衰退していくのではという危機感を強く感じていた。そこで、"土沢らしさと住民力を未来に繋ごう"という思いで、地域資源をアートに見出し、「街かど美術館」を開催することになった。

【取り組みの概要・経過】

商店街を舞台に、土澤まちづくり会社（住民参加協働型第3セクター）と萬鉄五郎記念美術館が中心となって、実行委員会を組織。これまで平成17年から3年連続で、秋の1ヶ月間、開催している。展示にあたっては、商店街の店舗や空き地を活用し、絵画や彫刻、インスタレーション等の現代美術作品を展示。

［参考データ（推移）］

	H17年	H18年	H19年	H20年
会場数	77	101	59	70
作家数	133	207	4	70
来訪者数	10,000	15,000	15,000	6,600

※平成20年：アート＆クラフトフリーマーケットとして開催

※平成21年からは2年に一度のビエンナーレ方式を採用して開催

【取り組みの効果】

年々、地域の活力が失われている土沢地域にとって、かつてのにぎわいある商店街を再体験できたことは大きな喜びであり、多くの人の心を動かした。期間中、地域住民が主体となってリメイク古着のファッションショーを企画したり、またこれまで家の中に保管していた水彩画や絵画をお店で展示するようになったことは、その喜びの表れでもある。

また、期間中の各商店の売上においては、理美容店をはじめとしたサービス業の売上こそ伸び悩んだものの、飲食店や一般小売店の売上は1.5倍から3倍程度伸びている。しかし、それ以上に地域住民の心を動かしたところに、街かど美術館の成果がある。

【今後の課題など】

持続的な取り組みにしていくため、市町村等の補助に左右されず、自立した形で事業運営できるようになることが課題。

また、普段人通りの少ない商店街において、街かど美術館の開催期間以外の日常にあっても商店街のにぎわいづくりと回遊性を持たせるため、アートがいたるところに息づく商店街をいかにつくりあげるかがポイントである。

さらに、同様の街かど美術館は全国各地で開催されているものの、作家－住民－鑑賞者の3者が深く関わり、交流しながらまちの懐かしさやまちの良さを感じる、同様のアート展は類例がないと評価されている。この関係を大切にし、未来に繋がる商店街の顔に育て上げたい。

街かど美術館の作品（H１７展示作品より）

商店のショーウインドーを使ったアート展示

【東和町土沢商店街】

所在地：岩手県花巻市
会員数：７７名
店舗数：７７店舗
商店街の類型：中山間地中心型商店街
ＵＲＬ：http://tmo-towa.blog.ocn.ne.jp/

【この商店街にこの人あり】

猿舘 祐子
（株式会社　土澤まちづくり会社 専務取締役）
０１９８-４２-１３３１

【活動紹介】

○H１５,１６道路の社会実験
　プロジェクトリーダー
○街かど美術館企画会議（実践部隊）
　理事長（プロジェクトリーダー）
○花巻市都市計画審議委員　ほか

【うちの商店街、ここが自慢】

来訪者と地域住民が自然と打ち解ける「街かど美術館」は他商店街に誇れる取組。

エコイベントで活性化する商店街!!

ここがポイント

「エコ」と「レトロ」の２本を柱に新たな取り組みを行う商店街。

新しいタイプの新聞回収袋

【取り組みの背景】

活気のある商店街を取り戻したい!そういった思いで両商店街が合致し、アクションを起こした。これからの商店街はどうあるべきか？一方的にお客様に働きかける（商品を売る）だけではなくて、商店街とお客様が一緒になって商店街をつくり、また、商店街の情報をどんどん発信していきたい!そんな街づくりを推し進めたいと思い、今回のイベントを開催するに至った。

【取り組みの概要・経過】

商店街とお客様が一緒に取り組める事として、「環境活動」（リサイクル）を取り上げた。しかし、あまり難しく考えるのではなく、まずはお客様に、環境問題やリサイクルについて関心を持ってもらえるようにとイベント内容を考察した。イベントのタイトルでもある『街に恋（こい）祭り～ええコト（eco）しよう!石巻～』とは、お客様が街に来てほしい=「来い（恋）」と、街を愛する心=「恋」のふたつを掛け合わせて出来た言葉である。テーマとして、「エコロジー」と「レトロ」を設定。それを軸にイベントを開催した。

1. 新しいタイプの新聞回収袋、Re－新聞袋

『恋袋』の製作・配布

両商店街で新聞回収袋を１０,０００枚製作。袋の表面には両商店街の「懐かしい写真」や『恋袋』に対する商店街の想いをレイアウトし、「イベント告知」や「商店街マップ」も盛り込んだ。この『恋袋』は単に新聞をリサイクルする袋としてだけではなく、両商店街の広報誌としての側面を持つように、また、お客様と商店街の架け橋となるように、街の様々な情報を詰め込んだ。

2. オープニングセレモニー

『恋袋』の提唱、説明をし、また、セレモニー当日にお客様から回収した古新聞をお買い物券、記念品と交換した。また、それを『恋袋』に詰めて積み上げ、事前に回収したものと合わせ、縦2m、横2m、高さ3mの「新聞ピラミッド」を作った。

3. 石巻　昭和の16ミリ上映会・写真展

地元を記録した昭和１０年前後からの貴重なフィルムを発掘し、２０分程度のDVDに編集し、空き店舗で上映した。また、その当時のなつかしい写真（5、60枚）も展示した。

4. 作ろう!「新聞マイバッグ」

新聞紙4枚で出来る、世界に一つだけの「新聞マイバッグ」制作の講習会を実施。お客様がお気に入りの新聞紙（主にカラー広告の紙面）を持ち寄っていただき、作り方の講習をした。新聞紙のリサイクルはもちろんだが、新聞紙の有効活用の喚起を促す目的で行った。

5. むかしなつかし古道具展

昔そして今でも、各店舗や自宅で使用していた（使用している）、古道具を店舗のウインドウに展示した。「もったいない」精神を意識してもらい、それぞれの道具がその寿命まで使い切ってもらえるようにとの願いを込めた。

【取り組みの効果】

「オープニングセレモニー」で当日、古新聞回収にご協力いただいたお客様は100名程。景品と交換という事もあったが、お客様のリサイクルに対する関心の高さをうかがわせた。

「石巻　昭和の16ミリ上映会・写真展」の上映会は毎回大盛況だった。約75年前の記録が映像として残っていたのはかなり貴重なものである。また、現在このDVDを商品化して、販売している。

「新聞マイバッグ」制作の講習会では、参加者の皆さんは童心に帰ったように目をキラキラさせ、制作に夢中になっていた。計3回の講習会で30人以上の方が、ご自慢の「新聞マイバッグ」を作っていかれた。

「昔なつかし古道具展」では、普段はあまり行かない店舗の前をお客様が行き交う等の効果はあったものの、なかなか店内に入るとまではいかなかった。しかし、回遊していただいたお客様には、商店街の位置関係や「こんな店があったのか」といった、新しい店舗の発見等あったようだ。

商店街のみならず、市民のエコに対する意識を高める事が出来た。また、中心商店街の良さや楽しさを再発見し、街の賑わいを創出し、次世代へ向けた街づくりの起点となった。

【今後の課題など】

今回は、各店舗の売上げ等数字的なものの効果を期待するイベントとしてではなく、とにかく街（商店街）に目を向けて欲しいとの想いが強かった。「街に元気を、活気を取り戻したい!」の一心で行った「恋祭り」だった。そのような観点からすると、今回の事業の主たる目的は、概ね達成できたのではないかと思う。今後は、それをいかに直接的な売上げとして数字に残せるか、その辺りを見据えて取り組みたい。

【アイトピア商店街振興組合・橋通り商店街】

所在地：宮城県石巻市
会員数：６５名
店舗数：６３店舗

【この商店街にこの人あり】

櫻井　健司
（アイトピア商店街振興組合　理事･イベント委員）
ファッション・イン・サクライ
正岡　賢司
（アイトピア商店街振興組合　理事長）
クツの向山　０２２５-９６-６５７０
榊　顯雄
（橋通り商店街　理事長）
榊洋品店
０２２５-２２-１４５４

【うちの商店街、ここが自慢】

先達が築き上げて来た歴史と、若手が新しいアイディアで、街の活性化にチャレンジしている。

水産資源と地域ネットワークを活用し活性化する商店街!!

ここがポイント

港町という強みを生かした商店街。

「志津川おさかな通り」の様子

【取り組みの背景】

南三陸町志津川の中心市街地は、近隣地域に次々と立地する郊外型大型 SC や消費者ニーズの多様化などに伴う購買客の流出により、空き店舗が目立つ寂しい市街地になってしまった。

そのような中、商工会商業部会のメンバーが中心となり、市街地に賑わいを取り戻すための仕掛け作りについて検討を重ね、約２００mの通りに８件の海産物関連商店（飲食店）が集積する地区を「志津川おさかな通り」と名づけ、店舗前に共通ののぼり旗を掲出し、親潮と黒潮が交わる三陸沖の好漁場や１年を通じて様々な養殖漁業が盛んに行われている志津川湾の豊富な水産資源を広く消費者に PR するとともに、イベントの実施や旅行客の受け入れなど観光事業とも連携し、特色を活かした他地域の商店街との差別化を図った商店街づくりに取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

①志津川おさかな通り大漁市

（毎年１１月中旬開催）

平成１６年に第１回目を開催し本年で第５回目となる。観光・物産振興を図るため、志津川地域の物産を集結し、食彩のある街を消費者に広めることを目的に開催。通りの一部を歩行者天国とし、水産物や農産物の特価販売、抽選会などを行っている。

②南三陸志津川寒鱈まつり

（毎年１月下旬～２月上旬に開催）

大漁市の継続性を主眼に、通りの一部を歩行者天国とし、「鱈」に代表されるこの時期にしか味わえない海産物等を集結し、特価で販売している。

③観光客受け入れ

大手旅行会社が企画するバスツーの行程に、おさかな通りでの買い物タイムを組み込んでもらい、買い物スタンプラリーを実施するなど、ツアー客に買い物を楽しんでもらえるよう協力して取り組んでいる。

④無料休憩所の設置

「まち歩き」を実現するため、通りの中心部に、

町観光協会などと協力し無料休憩所を開設。休憩所内にはパンフレットを設置するなど、通りに立ち寄ったお客様に少しでも長い時間滞在して頂くことで、地域の元気を感じてもらえるよう、交流にも力を入れ取り組んでいる。

【取り組みの効果】

海産物を扱う商店以外の方々からも、イベントなどへの協力を得ており、徐々にではあるが、他業種への波及効果が見込まれるようになった。平成１９年度のバスツアー実績として、催行２６団体、１，０３０人の参加となっている。

また、イベントの入れ込み数も増加傾向にあり、賑わいが創出され「おさかな通り」の知名度アップに繋がっている。

【今後の課題など】

昨年開催された仙台･宮城デスティネーションキャンペーンや商工会事業などを活用してきたため、独自で継続可能な態勢を作らなければならない。

他の観光業者（旅館･民宿など）との連携をスムーズに図れるよう、普段からの相互の理解が必要。

【志津川おさかな通り】

所在地：宮城県南三陸町
会員数：１３名
店舗数：１３店舗

【この商店街にこの人あり】

山内　正文
（志津川おさかな通り大漁市実行委員長）
０２２６-４６-４９７６

【活動内容】

南三陸の産物を集結し、食彩のある街を消費者に広めるため、観光・物産振興面でのイベントを開催し、町内外の消費者に中心市街地を回遊させている。
また、今年度から地元中学生の課外授業として、生徒をイベントスタッフとして受け入れるなど、商業に限らず地域の活性化を図っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

日常生活の利用商店街とお土産品販売を目的とした商店街の２面を併せ持ち、町内外のターゲットを分けたイベントの実施により、商業に限らない交流の場として位置付けられる。

アートをテーマに回遊性向上を目指す商店街!!

ここがポイント

空き店舗アートで活性化を図る商店街。

大町商店街の様子

【取り組みの背景】

地元出身のアーティストが老舗百貨店の閉店を機に衰退していく市街地をアートによる活性化を図るため、アートユニット「ゼロダテ」を組織し、空き店舗を活用した街なか美術館を提案。

ゼロダテ（0/DATE）とは、DATE（日付）を（ゼロ）にリセットし、もう一度なにかを始める、新しい大館を創造するという活動で、大館を想う気持を共有し、それぞれの「大館」と共に歩きはじめることを意味している。

この趣旨に賛同した市民ボランティアや商店街、若手アーティスト達が主体となって「ゼロダテ／大館展」を企画運営した。

【取り組みの概要・経過】

今年度は2回目の開催であり、大町商店街空き店舗、約20店舗35フロアを使用しアート展を開催。大館市出身や全国各地の若手アーティスト、地元画家、地元高校美術部など約35作家が作品を展示。

各空き店舗を活用することで商店街の回遊性を高め、市民が身近に芸術に親しむ機会の提供を目的に開催。また、作品の制作過程を公開し、約1ヶ月間作家が商店街に滞在して創作を行った。

ゼロダテは春の東京展、夏の大館展、冬のアメッコ市展など通年を通して活動している。大町商店街に活動拠点である ZAC（ゼロダテ アート センター）をオープンしカフェやライブ、アートワークショップなど地元の若者が集い定期的に運営している。

空き店舗を活用したアート展

【取り組みの効果】

美術館として敷居の高いものではなく、買い物袋を下げて気軽に立ち寄れ、市民の目線から楽しめる作品であるため、多くの市民が毎年楽しみにしており、大館のイベントの地位を確保しつつ

ある。

併せて商店街活動として街の顔であった老舗百貨店正札竹村をラベルに使った「正札サイダー」や比内地鶏を使った「地バーガー」などの地元ブランドを創作し、かつての賑わいがあった商店街の雰囲気を広く発信することができた。

また、「ゼロダテ」だけではなく、朝市とイベントを交えた「ハチ公元気市」も2回目の開催となり、多くの市民の集客に効果があった。

ゼロダテと商店街のコラボ制作「正札サイダー」

【今後の課題など】

「ゼロダテ／大館展」は夏の短期間のイベントであり、ZAC（ゼロダテ アート センター）も定期的に運営しているが、通年での商店街の活性化としての集客には繋がっていないのが現状である。

したがって、ゼロダテと連携しながら常設的な拠点を設置し、平日から買い物だけではなく市民が気軽に立ち寄り芸術等を鑑賞できるようなシステムの構築が必要である。そして地元市民、特に若者が積極的に参加できる仕組みを考えていく必要がある。

また、農商連携の試みとして開催している「ハチ公元気市」などの集客力の高いイベントを月1回、定期的に開催をし、郊外ショッピングモールにはない新鮮さを企画し実践してゆく必要がある。

【大館市大町商店街振興組合】

所在地：秋田県大館市字大町
会員数：１１１名
店舗数：９７店舗
商店街の類型：近隣型商店街
URL：http://www.hachiko.or.jp/

【この商店街にこの人あり】

横井伸一理事長
（大館市大町商店街振興組合）
TEL：０１８６-４３-１９７９
（ゼロダテ アート センター）
TEL：０５０-３３３２-３８１９
URL：http://www.zero-date.com/
E-mail：info@zero-date.com

【うちの商店街、ここが自慢】

北東北３県の中間点にあり、県北地方の要所である。
国立公園十和田湖や天然温泉などが点在し、秋田名物「きりたんぽ」、特別天然記念物「比内地鶏」、「忠犬ハチ公」の生誕の地であり、食や観光においても重要な場所である。
２月には商店街４００ｍにわたって露天がひしめく「アメッコ市」が開催され、ここのアメッコを食べると１年間風邪をひかないことから、県内外より多数の観光客が来街している。

「山王まちづくり憲章」の理念のもとに、より美しく、住みよい山王を掲げる商店街!!

ここがポイント

商店街活性化イベント・山王ナイトバザール。

山王ナイトバザールの様子

【取り組みの背景】

鶴岡市山王商店街の歴史は古く、山王日枝神社と芭蕉も乗船したという内川までの400 m 余りに50店舗ほどの商店で構成されている通りである。近年の相次ぐ大型店の出店や郊外店に押され、来街者の減少とともに、食品スーパーや大型家具店などの店舗の閉鎖も相次ぎ空き店舗の増加、また店舗の老朽化も進み、商店街の様を呈してない状況であった。こういった状況を突破するため商店街の若手グループが結束し、以前は1年に1度の夏祭りだけであったイベントを、青年部の勉強会で一定の期間集客を見込めるイベントは何か議論した結果として、平成6年より「山王ナイトバザール」を実施した。

【取り組みの概要・経過】

5月～10月までの毎月第三土曜日「山王ナイトバザール」を開催し、商店街のにぎわいづくり活動を継続している。

ナイトバザールの特徴は、商店街以外の団体や個人の出店・参画が多いことであり、近年では商店街イベントから市民のイベントとして定着している。年に1回の通行止めをして、NPO 団体と協働しながら鶴岡の踊り祭り「おぃやさ祭り」を開催している。市民には大好評で今後さらに拡大すると思われる。また、NPO との協働では内川を活用した「海坂の桜小祭り」「海坂の芭蕉小祭り」山王日枝神社を活用した「大黒様の御歳夜祭り」など地域の風物詩としての祭りの創出も行っている。

また、商店街のサポーターづくりを目的に「山王わくわくクラブ」を立ち上げ広報誌「わくわくだより」を発行するなどの情報提供や交流事業もおこなっている。

平成17年には商店街として維持発展していくために取り決めた「山王まちづくり協定書」を策定するなど、商店街自らまちづくりに取り組んでいる意欲のある商店街である。こうした取り組みが評価され、本年認定を受けた鶴岡市中心市街地活性化基本計画に盛り込まれた、「道改修プロジェクト」が進んでいる。

また、意欲ある商業者を戦略的に誘致するための受け皿店舗の建設を目的としたゾーン整備計画づくりの主体となるLLP「アクティブ山王」を設立し、商店街再生に向けた取組を開始している。

【取り組みの効果】

商店街の衰退に歯止めはかかってはいないものの、他の商店街に比べ下げ止まりの傾向にある。山王ナイトバザールの夜は大変なにぎわいであり、市民は郊外では味わえない、まちなかの雑然としたにぎわいに魅力を感じている。山王ナイトバザールで培ったネットワークで市民や NPO などと一緒に地元のニーズにあったまちづくりをする方向性を見いだすことができた。

山王ナイトバザールの様子

【今後の課題など】

商店街全体の高齢化により若者のニーズが拾えない状況にあり、ロードサイド店に若者の顧客が流れている状況は依然としてある。また商店主の現在のマーケティングに対する考え方を変えるのも非常に困難である。商店街はものを売るだけでなく地域の人たちのコミュニティの場となりえる整備が必要である。

【鶴岡山王商店街】

所在地：山形県鶴岡市
会員数：５１名

【この商店街にこの人あり】

三浦　新
（鶴岡山王商店街振興組合理事長）
（三浦糸店）
TEL：０２３５-２４-８９８７

【商店街への活動内容】

「山王ナイトバザール」の開催
「おぃやさ祭り」の開催
NPO 団体等と協働イベント
（「海板の桜小祭り」、「芭蕉小祭り」、「大黒様の御歳夜祭り」など）の開催
「山王わくわくクラブ」の情報配信と交流事業
空き店舗での産直市の開催
まちづくり相談所の開設

【うちの商店街、ここが自慢】

山王の歴史や文化を守り地域を支える商店街

もとまち青空フェスティバル!!

ここがポイント

まちなかに市民を呼び戻そうと地元商店街・商工会議所等が商店街活性化イベントを開催。

【取り組みの背景】

山形県長井市は、江戸時代より最上川の舟運により栄えた商人の町である。しかし、人口の減少や、郊外に大型店舗が出店するなど、中心市街地は衰退し、空き店舗が多く見られるようになった。

そこで、まちなかの賑わい創出を図り、市の中心市街地を活性化したいと、「音楽のあるまちづくり」をコンセプトに、本町大通り商店街振興組合では、平成１１年に第１回目『もとまち青空フェスティバル』を開催。以降毎年秋に開催され、今年で１０回目となる。

なお、この商店街のある本町大通りは、県の街路事業採択に向け、地域住民･商店主等が「本町・中央まちづくり協議会」を組織している。この協議会では、街路整備と共に、魅力ある中心市街地を目指し、活動を続けている。

現在は長井市内で様々な団体がまちなかイベントを開催しているが、その先駆けとなった取組みである。

【取り組みの概要・経過】

昭和初期の洋風建築である桑島記念館周辺をメイン会場に、子供から大人までが楽しんでもらえるように、様々なイベントを企画している。

①音楽＆パフォーマンス・ビンゴ大会等

幼稚園児から大人までが、音楽（吹奏楽）や踊り（パフォーマンス等）を披露し、イベントを盛り上げた。来場者に喜んでもらいたいと、豪華商品が当たるビンゴ大会や餅まきなどを実施した。

②地域循環システム普及促進による「安心･安全」の商店街づくり

食の安全が重視される中、長井市で取り組んでいるレインボープラン（台所から出る生ごみ等で堆肥をつくり、安全な農作物をつくる仕組み）で作った野菜や、その野菜を使用した軽食を NPO が販売。また、買い物袋持参運動の推進のため、商店街が独自で製作したエコバッグを販売。

③健康・健全なまちづくり

長井市は近年まち歩き観光を推進している。そこで、青空フェスティバル会場に「ヘルスアップ予備校」を開設し､観光客･市民を対象に内臓脂肪･筋肉量を測定し、健康管理についてアドバイス・相談を受けた。

④リピーター獲得に繋げる取組

近年は、買い物は週末に大型ショッピングセンターでという市民も多く、地元商店街の個店に入ったことがないという人も多い。そこで、商店街の個店を回るスタンプラリーや、各店毎にワンコインで買える商品を準備するなど、気軽に個店に入ってもらえる仕組みを考え、イベント参加者が、イベント開催後に顧客として再来店してもらえるきっかけづくりを行った。また、ハロウィンにちなんで、親子でお店を回ってお菓子をもらう「ハッピーハロウィン」も参加者が多く、好評を得た取組みであった。

⑤歩行者の安全確保の実証実験

まち歩き観光推進、また県の街路事業採択に向けての取組みとして、歩行者の安全性についての実証実験も合わせて行った。定点カメラを設置し、モニタリングした結果、以前から言われていた通り、道幅が狭く、危険であることが明らかとなり、まちづくり協議会の今後の活動に有益なデータを得ることが出来た。

【取り組みの効果】

長井の秋のイベントとして定着してきたことから、市内はもとより近隣市町からの来客もあり、今年は約２３００人を集客した。アンケート調査を行った結果、リピーターも多いことがわかり、１０年間継続してきたことで認知度が高くなっていると考えられる。秋にはこの他にもまちづくりNPO、他の商店街、山形鉄道等のイベントも行われ、週末には中心市街地が多くの市民らで賑わいを見せる。

【今後の課題など】

イベント参加者がイベント終了後も顧客としての関係性を維持するための仕組みづくり。イベント開催時以外でも多くの市民で賑わう魅力ある中心市街地をつくる。歩行者等の安全性の確保の取組の推進。

【本町大通り商店街振興組合】

所在地：山形県長井市

店舗数：２７店舗

商店街の類型：地域型商店街

【この商店街にこの人あり】

商店主（ サドヤ洋装店 ）佐藤博氏。本町商店街の青空フェスティバルの主担当。青空フェスティバルとして開催する以前も商店街では様々なイベントを開催していたが、その当時から中心となって活動してきた。

【うちの商店街、ここが自慢】

本町商店街の中にある桑島記念館。昭和初期の洋風建築で、元眼科医院であった。市の文化財に指定。平成７年に桑島眼科医院の改築が始まり、旧医院が取り壊されることになったが、本町商店街が主体となって保存活動を行い、同年１０月に本町駐車場の一角に移転、保存されることとなった。現在は中心市街地活性化の拠点として利用されている。

商業者中心のコンパクトシティ推進プロジェクトチームを組織し、ハード施設に街としての命を吹き込む数々のソフト事業を展開する商店街!!

ここがポイント

官民一体の強力体制で、コンパクトシティを目指す。

一店逸品研究会で熱心に聴講する商業者ら

【取り組みの背景】

中心市街地への集客の核施設となるべく、平成１９年１０月に駅前再開発ビル「LATOV（ラトブ）」が、また２０年４月には、東北屈指の音響設備を誇るいわき芸術文化交流館「ALIOS（アリオス）」が待望のオープンを迎えた。

このような中、商業者･行政･商工会議所では、「ハード整備だけでは賑わいは生み出せない」、「完成したハード施設に街としての命を吹き込むためにソフト事業が必要不可欠だ」という危機感を持ち、コンパクトシティの先進地である青森市視察を経て、１９年４月に官民一体となって「いわき駅前賑わい創出協議会コンパクトシティ推進プロジェクトチーム」を立ち上げた。

プロジェクトチームでは、歩いて楽しいコンパクトシティを実現するため、「出来ることからすぐに実践する」を合言葉に、商業者が中心となり、４つのプロジェクトを推進するための４つの部会を設けた。

【取り組みの概要・経過】

①部会の１つ「一店逸品運動推進部会」では、個店の魅力アップを目指して、１９年６月から一店逸品運動に取り組み、約半年にわたる研究会を経て「逸品ガイドブック」を取りまとめた。現在は３６店舗の参加のもと第２回一店逸品運動を展開しており、２０年１１月からは逸品を巡るツアーイベント「逸品発見！お店回りツアー」もスタート、大変好評を得ている。

一店逸品運動「逸品発見！お店回りツアー」

②「街なか駐車場検討部会」では、２０年４月から「共通駐車サービス券」事業をスタート、販売枚数は１０万枚を超えた。
現在はさらなるアクセス環境の向上による、来街者の増加を目指している。

③「街なか空き地・空き店舗有効利用促進部会」では、空き地・空き店舗を活用した実証実験として「しろがね夜台村」を実施、ノスタルジックな雰囲気を演出し、大変好評を得た。現在は空き地や空き店舗が抱える問題点の研究、有効活用策を模索している。

しろがね夜台村を囲む市長、副会頭、商連会長ら

④「街なか情報発信推進部会」では、商店街ポータルサイト『いわきまちぴた』を開設、街区３００店舗のホームページを搭載し、中心市街地の様々な情報をリアルタイムに提供している。現在は平商店会連合会の自主運営で、市民のニーズに応じたタイムリーな情報発信ができる仕組みづくりを目指している。

【取り組みの効果】

一店逸品運動や商店街ポータルサイト事業により、個店の新規顧客獲得、中心市街地内の回遊性向上、駅周辺の歩行者数の増加などの効果が感じられる。

また、各種プロジェクトを通じて商業者のモチベーションが高まっており、これまで顔の見えなかった若手商業者が台頭するなど、商店街の人材発掘にもつながっている。

さらに、商工会議所や行政など関係団体との連携も密になり、官民一体となった強力な体制で事業を進めている。

【今後の課題など】

さらなる新規顧客獲得や売上増進など、個店の経営強化につながるよう各種プロジェクトの質を向上させていきたい。また、商店街・LATOV・ALIOS が一体となり、街の導線や街に必要な機能を検討し、市民に中心市街地の楽しみ方や暮らし方を提案していきたい。

【平商店会連合会】

所在地：福島県いわき市平字田町１２０
　　ラトブ6F いわき商工会議所内
会員数：６６４名
店舗数：６６４店舗
商店街の類型：広域型商店街
ＵＲＬ:http://www.iwaki-machipita.net/

【この商店街にこの人あり】

小野栄重
（いわき駅前賑わい創出協議会　会長、
いわき商工会議所　副会頭）
TEL:0246-25-9152

【うちの商店街、ここが自慢】

コンパクトシティの各事業は、この一年間で４つ全ての部会で事業を実現させた。商業者の結束力が高まり、行政や商工会議所とのつながりも密になり、官民一体となって取り組んだ結果、大きな成果を残すことにつながった。